

## 令和7年度 第1回平田地域協議会会議録（要約）

- 日 時 令和7年5月27日（火）午後1時25分～午後3時15分
- 場 所 平田農村環境改善センター 多目的ホール
- 出席委員 12名  
1号委員 長堀 恵理 佐藤 真美 石黒 初枝 阿部 太郎  
佐藤 善仁 今井さち子 丸山 清 山口 貴明  
2号委員 石黒 由香 佐藤 正一 新楯 康 阿部 和葉
- 欠席委員 3名  
1号委員 田中井広志 小野寺孝延  
2号委員 久松 由華
- 酒田市出席者 酒田市副市長（委嘱状交付） 安川 智之  
まちづくり推進課長 荒木 英義  
平田総合支所長 阿部 司  
平田総合支所長補佐兼建設係長 奥山 正之  
平田総合支所長補佐兼産業係長 進藤 貴  
平田総合支所長補佐兼地域振興係長 池田 徹  
平田総合支所地域振興主査 阿部 光正
- 傍聴者 なし
- 議事日程  
1. 開 会  
2. あいさつ  
3. 委員・職員自己紹介  
4. 地域協議会について  
5. 会長・副会長の互選  
6. 会長・副会長あいさつ  
7. 会議録署名委員の選任  
8. 報告  
（1）酒田市過疎地域持続的発展計画の策定について  
（2）令和6年度 市長への報告内容について  
（3）令和7年度 平田総合支所予算について  
9. 協議  
（1）令和7年度 平田地域協議会の開催予定について  
（2）その他  
10. その他  
11. 閉 会

### 【協議会の概要】

新たな任期の委嘱状を交付し、会長・副会長の互選が行われた。会長に石黒由香委員、副会長に丸山清委員が選出された。

まちづくり推進課より過疎地域持続的発展計画の策定について説明があった。また、令和6年度市長報告会、令和7年度平田総合支所予算について報告があり、今年度の地域協議会の年間計画について協議した。今年度は4回開催とし、主な内容を地域振興に係るもの及び市長に報告する地域課題について協議することとした。

### 【会議録（要約）】

#### 1. 開会

- ▶事務局より開会と欠席委員3名の報告

#### 2. あいさつ

- ▶阿部支所長あいさつ

#### 3. 委員・職員自己紹介

- ▶委員12名と事務局5名の自己紹介

#### 4. 地域協議会について

- ▶資料に基づき、池田支所長補佐が説明

#### 5. 会長・副会長の互選

- ▶出席委員の互選により、会長には石黒由香委員、副会長には丸山清委員が選出された。

#### 6. 会長・副会長あいさつ

- ▶石黒由香会長、丸山清副会長あいさつ

#### 7. 会議録署名委員の選任

- ▶会議録署名委員は、これまでどおり名簿の順番に指名することとし、長堀恵理委員を指名した。

#### 8. 報告

##### (1) 酒田市過疎地域持続的発展計画の策定について

- ▶資料に基づき、まちづくり推進課荒木課長が説明

——安川副市長の到着により、途中説明を中断し、委嘱状の交付を行う——

### 【8（1）に対しての意見・質問】

#### ○丸山清副会長

資料の現行過疎計画の進捗状況に、未着手が散見されます。これは理由があつて未着手だと思いますが、住民や地域への説明はされていますか。

#### ○まちづくり推進課長

私も今年度まちづくり推進課に異動してきて、そこが気になっております。事業進捗状況の中で未着手と掲載されている事業がございます。個別の事業に関しては、私も把

握しておりませんので具体的にお答えできません。ご質問いただいた事は支所を通して関係課に確認をしていただきたいと思います。

○丸山清副会長

平田地域にも未着手があり、継続もあります。こういったものは、予算も継続していくものなのか。ぜひ支所長、後程教えてください。

○山口貴明委員

過疎債の活用例について説明ありましたが、国県の事業が入らなくても、単独でも該当するかという確認と、地域おこし協力隊活動支援事業についてですが、平田地域が休止となっています。聞くところによると、東陽コミュニティ振興会で地域おこし協力隊が配置されているとうかがった。6年度末の状況ですので、このような記載かもしれませんが、直すべき所を直したうえで現在の状況を皆さんにお示したほうがいいのかと思います。

もう1点、以前だと、どちらかというハード事業を過疎事業にあげていたという私のイメージでしたが、何か最近すごく変わってソフト事業に転化しているということ伺ったときもあった。もしわかれば、教えていただきたい。

○まちづくり推進課長

まず1点目が国県の補助がなく、全額市の持ち出しでそれに全額過疎債が充てられるかというご質問ですが、財政課へ確認してみないといけないですが、私の認識では充てられると思っています。

ひとつ具体例をあげますと、自治会館の復旧に対する補助事業ということで、昨年度の補正予算を上げまして、それぞれ、最初から自治会に補助金を交付しておりますが、それは過疎債ではなくて、災害対策復旧税、また別の起債を使っていますがそれは全額起債を使っていますので、おそらく過疎債も大丈夫だと思います。

先ほど地域おこし協力隊のお話がありました、過疎計画に掲載される地域おこし協力隊の活動支援事業についてですが、私の認識では、地域おこし協力隊の配属時の給料と車の借り上げなどの活動経費は、特別交付税措置で別に国からその分が充てられます。酒田市も今年度の目標を地域おこし協力隊の配置人数を20人として今取り組んでおります。平田地区では現在、東陽地区に1人配置し、活動しております。

3点目が、確かに以前はハード事業がメインでした。近年、ソフト事業もかなりウエイトを占めております。私が平成28年度にまちづくり推進課に所属していた時、人づくりまちづくり総合交付金を当時私が担当し、交付金制度を作りました。その人づくりまちづくり総合交付金の平田、松山、八幡地域については過疎債を充てている。平成28年度頃からすでに充てている。どこかの時点でソフトの方に充てられるようになってきていると私も認識しておりました。

○阿部支所長

ただいま、副会長から休止事業の取り扱いについてご質問があったわけですが、先ほど荒木課長からも説明がありましたが、流れとしてはこの令和6年度末時点での計画の状況をたたき台にしながら検討を加え、今後、9月に素案を皆さんにお示しする予定になっております。この資料を見ますと、担当課という記載がございます。当然この中に平田総合支所が所管する、例えば今、山口委員からお話がありました地域おこし協力隊や平田地域内であっても、道路や農道関係などの各所管課がありますので、こちらにこの事業計画の進捗状況も含めまして、確認をしているところでございます。

今後一定程度市役所の中で整理をした段階で、改めて委員の皆様にも今後の方針を含めてご説明できる予定となっております。その際に、いろいろご意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○石黒由香会長

他に質問がなければ、まちづくり推進課長は退席いたします。

まちづくり推進課長退席。

## 【(2) 令和6年度市長への報告内容について】

○石黒由香会長

それでは、次に(2)令和6年度市長への報告内容についてです。出席した私から説明いたします。

まず、昨年度は当平田地域協議会で、平田生涯学習センターについて重点的に話し合いを1年間進めました。

提出した資料1の施設運営と施設機能の問題についての、説明に対しての市長の回答が、指定管理の施設は毎年利用者アンケートが実施されているが、学習センターは管理委託の形態のため利用者アンケートが行われていない状況ということでした。そのため、是非、利用者アンケートをとって、利用状況などを把握していければということでした。

その他に冷暖房などいろいろ不備がある点については、今後、利用拡大がされていけば、さらに施設の修繕を行って継続していくためにも、努力をしていきたいという回答でした。地域の魅力の発信として、地域の活用ですがPRについては大事な事だと市長もおっしゃっていました。

それから前年度と同じように施設運営をしても、酒田市全体で経費が約8億円増加するとのことでした。それは人件費、物価高騰などの理由からだそうです。そのため、次の活用策では「兼ねる」「ある物を生かしていく」「省略していく」「広域で考える」という方向性が必須であるということでした。

例えば、コミ振を統合して生涯学習センターに集めたりすることを考えていかなければならないのではないかという提案でした。

副会長の丸山さんにもサポートの提案をいただいたのが、クーリングシェルターという取り組みです。暑い日に休める場所として、生涯学習センターを指定していただけると訪れる人も多くなるのではないかという提案も補足していただきました。

また、生涯学習センターをさらに使いやすくするために、飲酒ができたり、指定管理にさせていただいたりという提案については、社会教育施設ではない方が利用しやすいのであれば、その変更もありうるという回答をいただきました。

利用拡大を図っていただけると、酒田市としては施設を残す方向にもって行きやすいという回答でありました。

## 【(3) 令和7年度平田総合支所予算について】

▶資料に基づき池田支所長補佐が説明

○佐藤正一委員

タウンセンターについてお伺いします。タウンセンター自体の管理者は支所長さんでいいのですか。

我々は石黒会長さんも含めて町を明るく元気にしようということで、「ビッグハート事業」を去年は夏に実施しました。それまでは、冬にイルミネーションをつけていくというようなことを行っていました。その時に電気の使用量など細かい事を言われて苦労していたという記憶があります。その責任者は誰なのか。地域のために我々が頑張ろうとしているのにいかななものかと思ひ、質問しました。

○阿部支所長。

平田タウンセンターの所管ということですが、ご質問の貸館の取り扱いや外の芝、北側広場などビッグハートさんでいろいろ使用したいという内容になりますとその使用申請窓口は平田総合支所になります。私が入用許可の責任者となります。イベントでのタウンセンター使用にあたりましては、二度手間にならないように事前に担当職員と使用申請について打合せさせていただければと思います。

○佐藤正一委員

まずは、よろしくお願ひいたします。

9. 協議

(1) 令和7年度平田地域協議会の開催予定について

▶資料に基づき池田支所長補佐が説明

10. その他

【その他に対する意見・質問】

○丸山清副会長

7月21日海の日生涯学習センターで行うイベント「ぜったいもしえじかん」について協力依頼と内容について説明。

○山口貴明委員

施設利用の減免の話などいろいろ話題になっています。今まで我々は恩恵を被ってきたが、減免が無くなるという話も聞きます。

地区の自治会長からは自治会長会で支所をタウンセンターに移転すると言ったようなことを聞きました。それはいつ頃ですか。誰がどう決めるのですか。なかなか一般市民には伝わってこない。今後の段取りについて教えていただきたい。

また、ひらた生涯学習センターもとりこわすという噂もあります。そういった話は地域協議会で話し合ったのでしょうか。あえて、この場を借りて話をさせていただきました。

○阿部支所長

市民への説明ということでは、昨年この地域協議会で、市から平田総合支所を隣のタウンセンターに引っ越しをして、今ある総合支所は閉じる、跡地利用も検討していくという方針案の説明があった。その他にも平田自治会長会、平田コミュニティ振興会連絡協議会とも意見交換をしている。また、支所移転の話のほか、仁助新田にある生涯学習センターのあり方、農村環境改善センターのあり方についてなど、市の公共施設のあり方について、市民ら有識者を交えた懇談会の場で昨年検討されました。この情報は、市ホームページから見ることができます。

これら市の方針に対しては、今年の1月に平田地域協議会の会長さんも出席した自治会長会とコミ振連絡協議会と地域協議会3者合同会議で、酒田市に要望書が提出されております。市議会には令和7年3月議会の常任委員協議会へ平田総合支所機能のひらたタウンセンターへの移転への方向性について報告されています。市民全体には、まだ現時点で検討中だという段階のため、まだ公表にはなっていませんが、今お話をさせていただいたような公共施設の再編が今年度、具体的に進んでいくのではないかと考えているところです。

地元への説明や施設利用者の理解を求めていくということは継続していかなければならないわけですが、それが先ほど石黒会長から今年の市長報告会での施設運営の方向性についての話がありました。「使えるものは使っていく」とか、活用策についてそういった話が最終的に行政の立場としては出てくるようではあります。

その一方で、今ある施設を十分活用しながらやっていかなければならないと、丸山副会長さんはじめ、皆さんが取り組んでいる地域の拠点施設として生涯学習センターを使っていくという仕掛けも見せていきながら、利用者の増加やリピーター確保を将来的な酒田平田地域づくりのためにつなげていきたい。そういう思いでおりますので、今後も委員の皆様と情報共有し、地域づくりにつなげていきたいと考えております。

#### ○山口貴明委員

もともと旧平田町として、地域づくり、まちづくりをしてきたときに、公民館や分館制度でやっていたということで、施設はあまり規模が大きいわけではないわけです。

例えば、飛鳥のコミュニティセンターがそもそもですが、人口規模からすれば、あれが適正なのかということです。他の市街地のコミセンと比べると、決して大きくはないと思います。特に松山と八幡の場合は、廃校になった小学校をそのままコミセンで使用し、体育館や給食の準備室など非常に整った環境でコミュニティ事業を行っているわけですが、平田の場合はそういった所がない。それはなぜかということ、生涯学習センターやタウンセンターなどきちんとした施設があるので、コミュニティセンターが大きくなっていいという地域づくりをしてきたのではないかなという記憶もございます。もうこのまま、各施設が使えなくなった時にどうなるのかと思います。

平田総合支所も、何も使用しないのでやめるといったような感覚の話も聞こえているようですが、この前、市の総合計画のアンケートが届きました。それにも書かせていただきましたが、例えば今、鳥獣被害があちこちで頻発しています。熊対策課ではないが、農政とか、環境衛生とかだけではなく、危機管理とかそういったことを市全体で考えなければいけない課題だと思います。一番出没しやすい地域にすぐに取り組めるような課を置くことはできないのかということを書かせていただきました。

最後にもう一点、公共施設の検討にあたっての資料をホームページから見させていただきました。いろいろな施設の利用者数を書いてあったが、集計しているのが令和3年や4年ぐらいのもので、ちょうどコロナ禍真っ只中という時期であり、どこの施設もあまり利用していなかったのではないかと、それをあえていかにも利用していないという集計を出されても、それって何だろうっていう話です。財政課でも一生懸命作成したのですが、考え方が理解できなかったものですから、あえて述べさせてもらいました。

#### ○佐藤正一委員

檜橋地区に私は住んでいますが、檜橋有志のみなんで、プレハブの小屋を作りました。作ったといってもリースですけども。地域協議会でいろんなことをやろうと言いながら、なかなか進まないというようなこともあったりして、自分たちでできることは何だろうかと思ったときに、地域のみんなが喜ぶような場所づくり、檜橋の自治会館は

ありますが、自治会館が少し山の方にあり、高齢者や子供たちが行きにくい場所ということがあったので、檜橋の床屋さんの向かい側に空き地を提供してくれる方がおりましたので、そこに作りました。

3月ぐらいから建てました。いつもではないですが、近所の人たちが集まって、コーヒーやお酒を飲んだり、勉強会をしたりというようなことをやっております。檜橋の人が1人でも入っていれば、檜橋以外の方でも利用できます。順次、いろんな事業をやりたいと思って企画もこれから考えようと思っております。楽しい場所にできればと考えておりますので、皆さん気にしていただけるとありがたい。

もう1つ、先ほど丸山副会長さんから「ぜったいもしえじかん」という資料をいただきました。ひらた生涯学習センターは、必要がないということ、市のお偉いさん方は考えたりするが、生涯学習センターは仁助新田にあるため、例えばですが檜橋や飛鳥や砂越の人は、生涯学習センターまでは何かイベントがなければ、行く必要がないという感覚だと思います。逆に、円能寺や小林、鹿島の人は通勤で酒田へ行ったり、用があったりするときは飛鳥、砂越辺りを通ってくるので、地域全体を見渡せるが、飛鳥、砂越に住む人は何かイベントがない限り、行く場所ではないというようなことも意識の中にあり、あまり関係がないという感覚だと思います。だから、こういった楽しいことを実施したということを風聴し、やってみる。そして平田全体が、楽しい所だということをもっと知らせる必要はあります。地域協議会の皆さんも一緒になって考えて活動し、参加するということは必要だと思いますので、私も参加させていただきたい。こういった企画を考えていただいて、素晴らしいことだと思っております。

#### ○石黒由香会長

これから2回目、3回目で皆さんからいろんなことについて、議論していただくが、次回集まってから今年度何を話しあうかを考えると時間が足りなくなってしまう。ぜひ今年度何について話し合っていきたいかを考えておいていただければと思います。よろしくをお願いします。

### 1 1 閉会

#### ▶丸山清副会長閉会